

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第11章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

11章。

大患難の半分が過ぎました。

それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。

「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。」(黙示録 11:1)

ここで思い出してください。

時系列的に、今私たちが見ているのは患難期で、ヨハネは神殿を測れとされています。

これは何を示唆しているかということ、エルサレムに神殿が再建され、この時には機能しているという事です。

聖書を学んでいる人はご存知の通り、聖書の中では常に神殿が鍵であり、知っておくべき神殿がいくつかあります。

第1神殿は栄光に満ちた神殿で、ソロモンによって、BC1050年頃にエルサレムのモリヤ山に建てられました。

400数年後のBC605年、北からバビロンが攻めて来たのですが、彼らはその後も3度イスラエルに攻め込んで、遂に3度目のBC586年にエルサレムを崩壊し、この栄光に満ちた神殿を破壊しました。

ユダヤの人々は70年間バビロンの捕囚となりましたが、預言者たちは、彼らは70年後に解放され、エルサレムに帰還し、神殿を再建すると預言しました。

そしてBC536年頃に、エズラ、ゼルバベル、ヨシュアによって神殿が再建されました。

それから、次に建てられたのが第3神殿。

ただこれには反対意見もあって、全ての学者がこれを第3神殿だと認めているわけではありません。

なぜなら、多くの人たちが第3神殿と呼ぶこの神殿は、新しいものではなく拡張された建物だからです。

BC20年、キリスト誕生の20年前に、ヘロデ王がユダヤ人の人気を得るために、既にあった神殿をリモデルし、拡張、大きくしたのです。

しかし、この、ヘロデ王によって新しくされた神殿もAD70年に破壊されました。

そこで、イエスは彼らに答えて言われた。

「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」(マタイ 24:2)

イエスが死んで40年後に、この主の預言が成就しました。

これらの石は、大きさが36m×12mで重量が数百トンの巨大なものです。

AD70年、ローマ皇帝ティトスがエルサレムを包囲していた時、ひとりの兵士が命令に背いて神殿に松明を投げ入れたため神殿が燃え上がり、神殿の金が溶けてしまい、その溶けた金は、これら巨大な石の隙間に流れ込みました。

ティトスは兵士たちをコントロールできず、彼らはその金を集めるために、積まれた石を崩してバラバラにしました。

こうして、30年前にイエスによって伝えられた、「石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」という預言が成就したのです。

エルサレムに行くと、かつてソロモンの神殿、第2神殿、そしてヘロデによって拡張された神殿が建っていた場所である神殿の丘に行くことができますが、そこに神殿はありません。

しかし、神殿は再建されます。

第4神殿。

これは、患難の神殿と呼ばれます。

11章は神殿について書かれていて、ヨハネはそれを測るようになっています。

イエスもまた、マタイ24章でこの神殿について、終わりの時、自分の再臨の前に、これらの事が起こると言いました。

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)」(マタイ 24:15)

『荒らす憎むべきもの』とは誰ですか。

これは、大患難の只中で、反キリストが神殿の中に入り、自分を拝むように命令することを指しています。

マタイ24章、Ⅱテサロニケ2章、黙示録11章、この3か所は全て、神殿が再建されると書いています。大患難期のある時点で、神殿の丘に神殿が再建されるのです。

「ジョン、ということは、私たちは携挙で上げられる前に神殿の再建を見るのですか。」

多分それはないでしょう。

現在、イスラエルの神殿研究所に行くと、神殿再建に向けて準備が整っていることが分かります。

けれども、私たちが神殿の再建を見ることはないと思います。

それは、携挙の直後に建てられるでしょう。

エルサレムについて知っているなら、新聞を読んでいるなら、神殿再建には問題があることが分かります。

正統派ユダヤ人が、どれほど神殿再建を切望しても、です。

正統派ユダヤ人は、神殿がなくては、神殿で血を流して捧げ物をしなければ、罪の赦しは受けられないと信じています。

彼らは、イエシュアが自分たちの罪のために死んだメシアだとは信じておらず、未だにメシアの到来を待ち望んでいるのです。

イエシュアが捧げ物とされたことを認識していないため、自分たちの罪が赦されるためには、捧げ物をしなければならないと思っています。

そのためには神殿が不可欠なので、正統派ユダヤ人は、神殿再建が必須だと信じているのです。

しかし、AD600年代後半に、かつて神殿が建っていたエルサレム旧市街の35エーカー（約492坪）の敷地、神殿の丘に、オルマーという男がやって来てモスクを建てました。

これはオルマーのモスクと言われますが、一般的には岩のドームと呼ばれています。

写真を見た事がありますか。

それはそれは巨大なモスクです。

正統派ユダヤ人は、「このモスクは、ユダヤ神殿の至聖所の場所に建っている」と主張しています。

もし彼らが、「ちょっとそこを退いてくれ。神殿は、第1神殿と第2神殿があった同じ場所に建てなければならないから。」なんてことを言うなら、大変な事態になってしまいます。

パレスチナ人が投石したり、タイヤを燃やしたりという程度の話ではなく、私が言っているのは、10億単位のイスラム教徒が、直ちにイスラエルに攻めて来るということです。

大量の血が流され、自殺行為になるでしょう。

ユダヤ人はそれを知っているのです。

では、岩のドーム、オルマーのモスクはどうなるのでしょうか。

ここから話が面白くなります。

ここで11章が入ってくるのです。

20年前（*1997年収録）、エルサレムのヘブライ大学の大変優秀な物理学者であり、考古学者でもあるアッシャー・カフマン博士は、神殿の丘全体を16年かけて調査し、大きな発見をしました。

それは、BAR（聖書考古学レビュー）誌の1983年3月/4月版に掲載されています。

それまで岩のドームは、最も聖なる場所に建てられていると言われてきました。

しかし、クリスチャンでも正統派ユダヤ教徒でもない、普通のユダヤ人物理学者で考古学者のカフマン博士は、「神殿が建てられていたのは、岩のドーム、モスクから100m北側だ」と述べました。

100m先に行くと、そこは広大な神殿の丘の基礎地、広大な空き地で、そこにはオリジナルの礎石があるのです。

カフマン博士曰く、「契約の箱が置かれていた至聖所の敷石は、これ以外にはない。」

それは平らでオリジナル。

否定のしようがありません。

彼はその理由を、古代から続くユダヤ教の言い伝えであるミシュナーで説明しました。

ミシュナーの中に、祭司は毎年ヨム・キプールの日に至聖所の中に立ちますが、そこから開けられた垂れ幕を通し、開かれた神殿の扉を通して、神殿の中から前方をまっすぐ見ると、東の門が見える、と書いて

あります。

東の門の真上はスコパス山。

スコパス山から東の門へ下り、神殿を通過して至聖所まで、まっすぐ一直線で結ばれるのです。

「ちょっと待って。現在の東の門は、イエスの時代の神殿の門と同じなのですか。」

同じです！

1970年、内密に発掘作業が行われた時、作業員たちは偶然、東の門の下に入り込むことができ、キリストの時代の東の門のオリジナルを見つけました。

それは現在の東の門の真下に位置しています。

今は閉ざされている東の門の写真をそこら中で見ますが、イエスの時代のオリジナルの東の門は、現在の東の門の丁度真下だったのです。

これに関しては疑う余地も、議論の余地も残されていません。

このように、東の門は直線で繋がりました。

しかし岩のドームは繋がりません。

それは100m南にずれるからです。

だから、全員ではありませんが、多くの学者が同意しているカフマン博士の説によると、あの礎石が至聖所の場所であり、そうなると、岩のドームを残したまま、神殿再建が可能です。

岩のドームは神殿の外の庭の位置なのです。

2節を見て下さい。

聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。

測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。(黙示録 11:2)

外の庭は測ってはいけない。

そこは異邦人のものであり、ユダヤ人の領域ではない。

驚くばかりです。

つまり黙示録 11:2によると、外の庭は異邦人の領域のまま、異邦人の支配下に残されるので、何の問題もなく神殿は再建できるのです。

「勿論、問題ありですよ、ジョン。夢を見ちゃいけない。イスラム教徒が、神殿の丘、岩のドームの隣に神殿を建てさせるワケがない！」

現状を理解するために、このことを知っておいて下さい。

1967年の6日戦争で、イスラエル軍がアラブ諸国に先制攻撃をしてエルサレムを取り戻しました。

しかし、その後起きた驚きの出来事には、未だに多くの歴史家たちが理解に苦しみ、意見が分かれています。

イスラエル軍が旧市街奪還！

エルサレムが再びイスラエルの管理下に戻って来た！

その時、モーシェ・ダヤンが取った不可解な行動。

その日、彼はイスラムの指導者カリフに言いました。

「引き続き、あなた方が神殿の丘を支配することを許可する。」

彼は、簡単にこう言うことができたのです。

「残念だが、そちらが戦争に負けたのだから仕方ない。」

でも、彼はそうしませんでした。

彼自身、これについて説明をしたこともなく、ただ、「ここにモスクが建っているから、あなた方が引き続き神殿の丘を管理すればいい」と言い、それで今もイスラムが支配しているのです。

現在、神殿の丘が全ての問題の火種ですよ。

どうしてモーシェ・ダヤンはそんなことを言ったのでしょうか。

それは、神が動かされたから。

ここが、反キリストが入り込む場所だから。

それが成就されるのです。

ダニエルによると、この反キリストは 7 年間の平和条約を結び、世界平和をもたらし、エルサレム問題を解決します。

ゼカリヤが預言した通り、エルサレムは、よろめかせる石、問題の中心です。

そこへ反キリストが登場する。

彼が外壁の回りを巡って四方を測ると、その長さは五百さお、幅も五百さおで、聖なるものと俗なるものとを区別していた。(エゼキエル 42:20)

反キリストは優れた政治力と知識を有し、「ユダヤ人は神殿を建てても良い。イスラム教徒は岩のドームをそのまま残して、間に壁を築こう。」「ユダヤ人の皆さん、岩のドームは異邦人の庭の中です。」などと言って、中東に確実に平和をもたらします。

何か、私たちの理解を超える形で話をまとめ、ユダヤ人もイスラム教徒も納得するのです。

その時、世界はそれを見て「この人（反キリスト）は世界的問題を解決した！」

クリントンもできなかった、ネタニヤフにもできない、アラファト？

誰も解決できなかったこのエルサレム問題を、反キリストが登場して言葉巧みに解決し、世界中が「奇跡だ！」と感嘆します。

それで神殿は再建され、そして大患難の真ん中で反キリストは本性を現し、自らがその神殿の中に入って、自分を拝めと命令します。

その時ユダヤ人は、「神殿で自分を拝めと命じることは、間違っている！」と、彼が自分たちの考えていた人物ではないことに気付きますが、もう手遅れで、既に反キリストは、支配する権力を手に入れていました。

ところで特記すべき事は、患難時代の神殿の後、第 5 神殿が建てられます。

患難時代の神殿は、キリスト再臨の時にキリストによって破壊されます。

そして、エゼキエル書の終わりに書かれている最後の第 5 神殿は、千年王国の巨大な神殿で、エルサレムでイエスが見守り、共に過ごす所となるのです。

つづく

あなたには、すべてができること、
あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。
知識もなく、摂理をおおい隠す者は、だれか。
まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。
自分でも知りえない不思議を。(ヨブ記 42:2-3)